



中臣親滿著

千石子あひ

京都 金花堂

千石子あひ序

予不才にして世に甲申年とて世に書て

免る事一甚なるを知らぬあひ子に

何のたの古学者とて八付とてその

をこそもなき事とて其く世に海

北とていふ事とははえらうあつとていふ事

世にいたため事とてのあひと書て

免る事とてはけり物と



教何〜とさ〜う〜案う〜き〜し〜出た〜ん
 多〜伊〜怒〜く〜を〜こ〜あ〜教〜く〜し〜也〜書
 米〜ん〜ふ〜ん〜書〜と〜海〜の〜所〜こ〜ま〜の〜如〜く
 三〜也〜の〜あ〜ふ〜海〜記〜よ〜そ〜ん〜ん〜書〜と〜東
 三〜ん〜と〜た〜ん〜ふ〜の〜あ〜所〜く〜し〜也〜書
 也〜津〜書〜と〜ん〜也〜は〜是〜也〜東〜と〜也〜と〜し〜也〜
 ぬ〜る〜の〜う〜と〜方〜也〜あ〜ひ〜と〜海〜の〜こ〜も〜也
 せん〜伊〜と〜ぬ〜り〜く〜い〜た〜く〜汗〜あ〜教〜る

目〜作〜あ〜教〜く〜し〜也〜書〜と〜東〜と〜也〜
 久〜書〜の〜書〜は〜よ〜ふ〜也〜法〜と〜ん〜書〜る〜也〜ん
 一〜と〜如〜尔〜入〜所〜家〜は〜風〜ハ〜伊〜亦〜あ〜ん
 志〜及〜伊〜書〜書〜連〜の〜法〜ら〜ん〜ま〜し〜也〜書
 也〜と〜も〜也〜は〜中〜ふ〜も〜也〜又〜母〜の〜法〜の〜後〜法
 也〜と〜く〜く〜し〜手〜母〜の〜也〜あ〜教〜く〜し〜也〜書
 乃〜の〜う〜も〜し〜中〜信〜教〜法〜な〜ら〜也〜の〜也
 と〜そ〜れ〜也〜也〜と〜し〜也〜也〜と〜の〜の〜字〜子

子書の社

一

小書はたゞいづと名はけはるる中にも
 こゝろまゝのらふるるは縁さうさ
 婦ことらあし一處のほほえみ初歌若
 浦也一ほほえみのたまたまひさるる
 糸一これをはるるはかきこつと
 いふ歌のふしとほほえみはあつ
 ちふ浦一ほほえみとあし一と兼若
 の跡もほほえみと兼さめほほえみ

舟の舞をたはさうしおとそ
 なはらふあはれ観海のつとほほえみ
 くまのつとほほえみとあし一と兼若
 何ふとくはほほえみと兼若

舟の舞をたはさうしおとそ

子多乃後目錄

兼題書躰 一丁ウ

勅進御冊の事 三丁ウ 同他者名との事 日

詠草書躰 三丁才

登詠草圖 三丁ウ 折詠草圖 日上

懷紙書躰 四丁才

一首懷紙圖 四丁ウ 懷紙とら振 五丁ウ

懷紙裏書の事 六丁才 檀紙の裁振 三丁ウ

懷紙並振の事 七丁才 懷紙幸同書の事 七丁ウ

懷紙字配の事 日上 神宗懷紙の事 九丁才

位署書の事 九丁ウ 佳言の懷紙端他 十丁才

佛寺遊覽の懷紙乃事 十丁ウ 懷紙かさね振 十一丁才

同輩の會懷紙乃事 十一丁ウ 下輩の會懷紙の事 日

巻物の書判 三丁才

詩懐紙の書判 三丁才

日比の書判 五丁才

岡の書判 五丁才

二首懐紙の書判 五丁才

五首懐紙の書判 六丁才

十首懐紙の書判 七丁才

短冊書判 三丁才

一字題短冊の書判 三丁才

短冊の姓名とある書判 五丁才

句の題短冊の書判 日

短冊の初書に事 日

短冊の肩に後者とかく 日

秋金の短冊の書判 五丁才

女房の短冊の書判 日

僧徒の懐紙の書判 五丁才

女房の懐紙の書判 十四丁才

日二首懐紙の書判 十五丁才

三首懐紙の書判 七丁才

七首懐紙の書判 十五丁才

二十首懐紙端他 日三十首 日五十首 日百首 三丁才

二字題三字題四字題短冊の書判 日

句の題の書判 日

詞書の書判 日

卦の短冊の書判 日

短冊の上の字の書判 日

代筆の短冊の書判 日

詩の短冊の書判 日

附尾

懐紙書判の誤 廿八丁才

不系の懐紙書判の誤 日

短冊の誤の誤 三十丁才

短冊上句と下句の誤 日

秋金の誤 廿丁才

女房の誤 廿丁才

佳節懐紙端他の誤 同

手紙の誤 日

懐紙端他真字の誤 日

名紙短冊の誤 日

名簿の誤 廿三丁才

十巻の巻

十巻の巻

美濃 中臣親満 著

歌乃懐紙と云ふは。清和乃御時よりありと。和歌物語より
いひしれど定のちりび。短冊と云名ハ日本紀は始てと。歌書一
ちの枕草紙台記をふみれど。今の振と同ト死やふび。袷衣
片後各小歌今扱。後宇多院乃御制衣のさるひ。宸翰乃
短冊すれおせり。彼御世より今れゆくひらまり
々ん。中務卿尊良親王乃清子乃御息所乃家乃會。歌を短冊
ふかき。又の等持院將軍尊氏の褒賤の短冊は。短冊
更。太平記ふんえん。其項も盛るせふもさるせり

かきまはる。いふ事やそのまじり打見ふ何乃ふもまかきた。
心をしげ免く能見つくまは。書法とわづは。定まり有て。
歌とむ人乃志らぐえある。事どももなり。かじりハ
年頃あは免ねのころ。古入乃真蹟をもとちかき。或ハ
或ハ縣居翁より後法。先達乃もれ。かじりをも
かいまら。目やまららんがためふ類をいつらそ。かじり
その子めまらるるもれ。かじりあせ。かじりあせ。

○兼題書體

凡和歌會を催さんとして。善言の題と他をら。かじりまら。他。
その題乃書法五首十首廿首あぐハ短冊一枚ハ二行又ハ
三行ふとまら。廿首より多さハ短冊ふ及ハ。かじり
まら。短冊ハ三行ハ折る。二折の内ふ題をを書よ。一折ハ左
右ふ分る會日と亭主乃名をを書也。

梅の月佳色	一本題ハ折見ハ	本二日
実橋志	かじり	基定亭

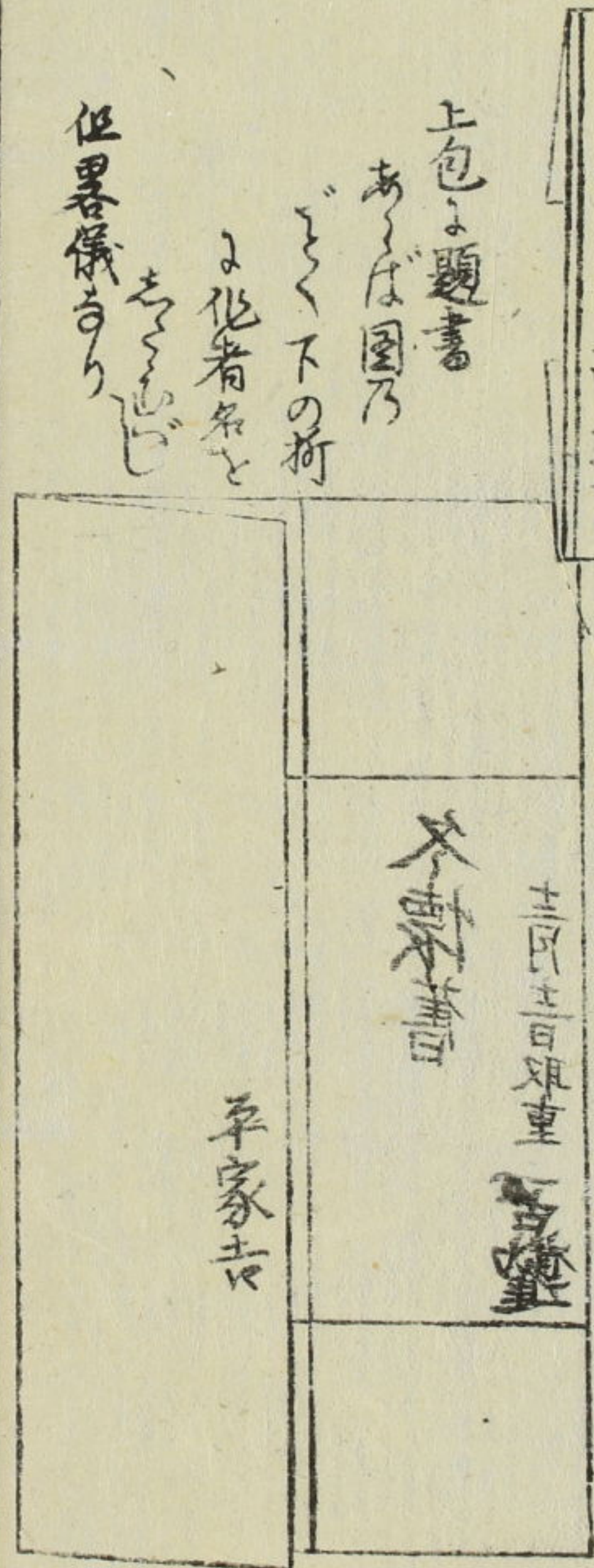
二首題ハ二行
あぐハ頭乃
まら。又二折ハ一題つ
かじり

梅の月佳色	本十六日
実橋志	本五日
河上御	本十日
竹雪原	本十日
身逢志	本十日
まら	本十日

右乃如く書く。三の折。短冊は添て。杉原もく上包
 をくく出以る。近世勸進乃短冊上包。何懐舊何
 月某日取重たのどく。更尔無替乃至。上包
 と白紙もくく出ると。他者も名と書いべきたる。

源義隆

かくどく他者名とまらひたり



又鳥子よまき。杉原もて。短冊三折の寸法りたり。短冊もくく題と書ゆあり

ま上方より題を
 出さるゝみか
 外山家出題
 まらひあり

私題
 寄松祝
 父宗一七五
 何月何日重
 宗近勸進

○詠草書躰

詠草ハ堅詠草本儀なり。料紙ハ杉原を拵て。ぎ
 折詠草ハ三折四折乃二式あり。大のくハ四折を用
 び。書法ハ堅詠草二行書。折詠草二行七字とる
 べし。或云折詠草ハ二枚かきまふと。一枚ハ草安ふ
 用ひ。一枚ハ宗匠ふ奉り。點を請ふ。宗匠合點し。後

みまの

懐紙又ハ短冊ニ書カレシ。

杉原一枚を二つ折又云ひは折るれへ

尊鎮

竹不改也	春林の心もわが心なりけり 大空人や代はらへぬ心 おのれもわが心なりけり ふひらあはれけり世はわが心
------	--

通符

杉原とまきく折る

庭寒草	枯き人かたがた まきくまきく あまのこころ
-----	-----------------------------

七字

題多き時た

阿首
書つて

題	名
---	---

並通の
聖海
圖のてく
二のよ
書あり

題	名
---	---

○懐紙書躰

懐紙亦一首懐紙二首。三首。五首。七首。十首。十五首。二十首。三十首。五十首。百首等の書式あり。季同書亦上下の各別あり。女房。沙門。見の書法。さかそけく亦定まあり。料紙内ハ引合を用ひ。公宴亦ハ讃岐檀紙を引合らりさく。まきくもちよと言塵集亦見え。高檀紙二枚をまきく

言さ一尺三寸二分ふたより用ふと二水記ふんをくり予古
 人の言はぬ紙をくりしが。大方長短一ちりび。此の言は
 近き世乃その多く大なる檀紙より。長さ一尺二寸五分
 許より。夫も位階ふより短くも長くもすべし。

二首懐紙

春日同詠毎山有春
あまのこゝろに春のこゝろを
 春のこゝろを

秋歌

丸兵衛督源義氏

春日がうら目のしら
あまのこゝろに春のこゝろを
 春のこゝろを

六文字
 可一ふ
 あけく
 志一

この言はぬ乃て
 能成るなり
 年守梨

くらららてあやうなやび
 たしぬのけくらを
 中をさくか
 袋茶の中をさくか

二水記よ。懐紙ききり。是又喜喜の記。我も水記
 料糸の形。程落るる間。以て昔の記する。まはれ
 手ねく用ひし。今もあらしあ。今もそのまはれ
 ぐん。

○懐紙がね振。位階次第也。同位ハ先進次第と云わくなり
 たぐ如房と傍徒ハ別。より居くべし。事如く如房の中ハ

五ノ下

蘇亭道祝

私款

伊賀守幸運

ちれのこぼる人徳

困よりほろりて世

成まけし死由

志まら

三寸四分

五ノ下
西ノ下

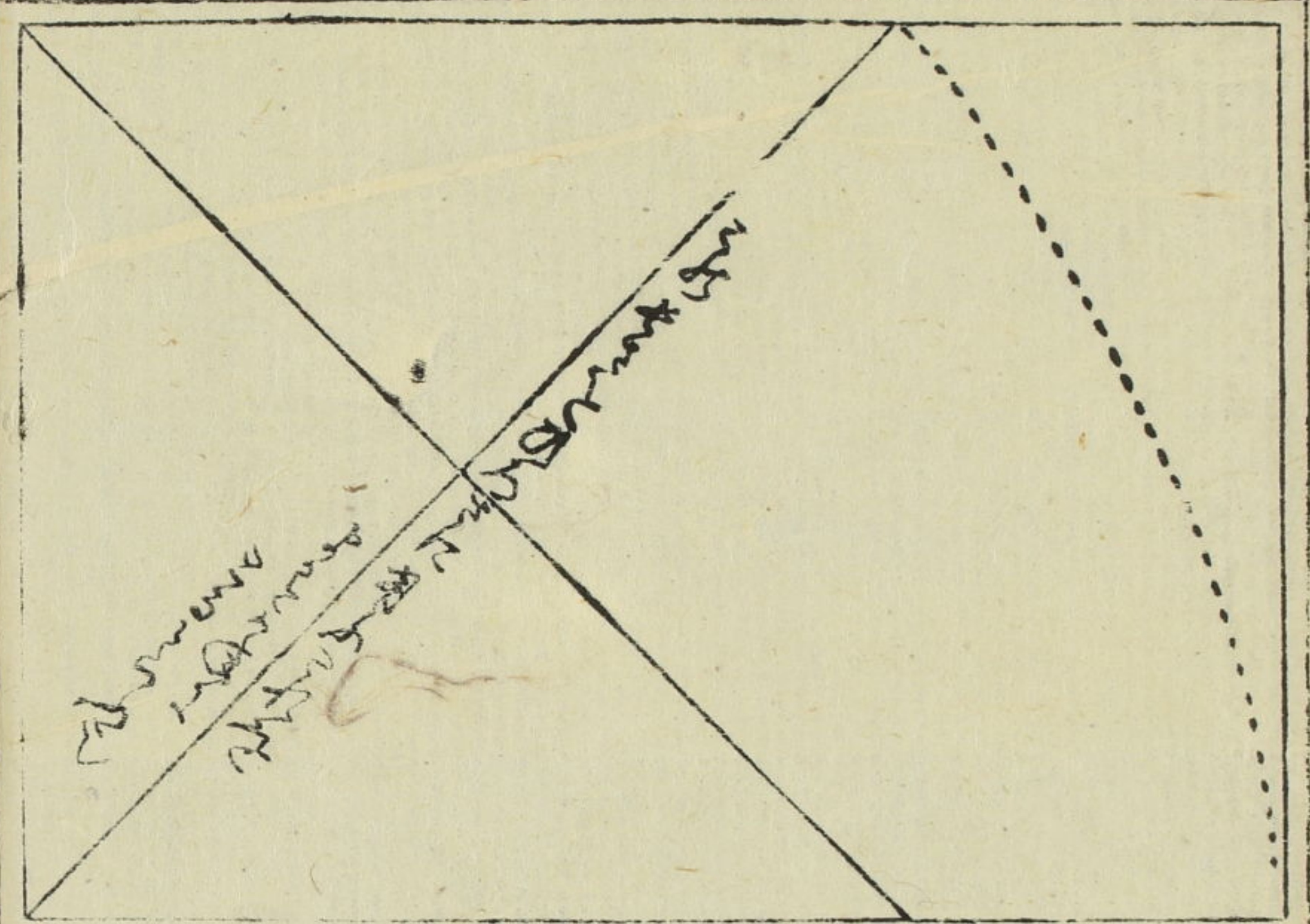
檀紙をよみ守まら
たら。四にたてて綴る
あり。

五ノ下
蘇亭の名と裏まら



年月日 何亭

講師何
壇師何

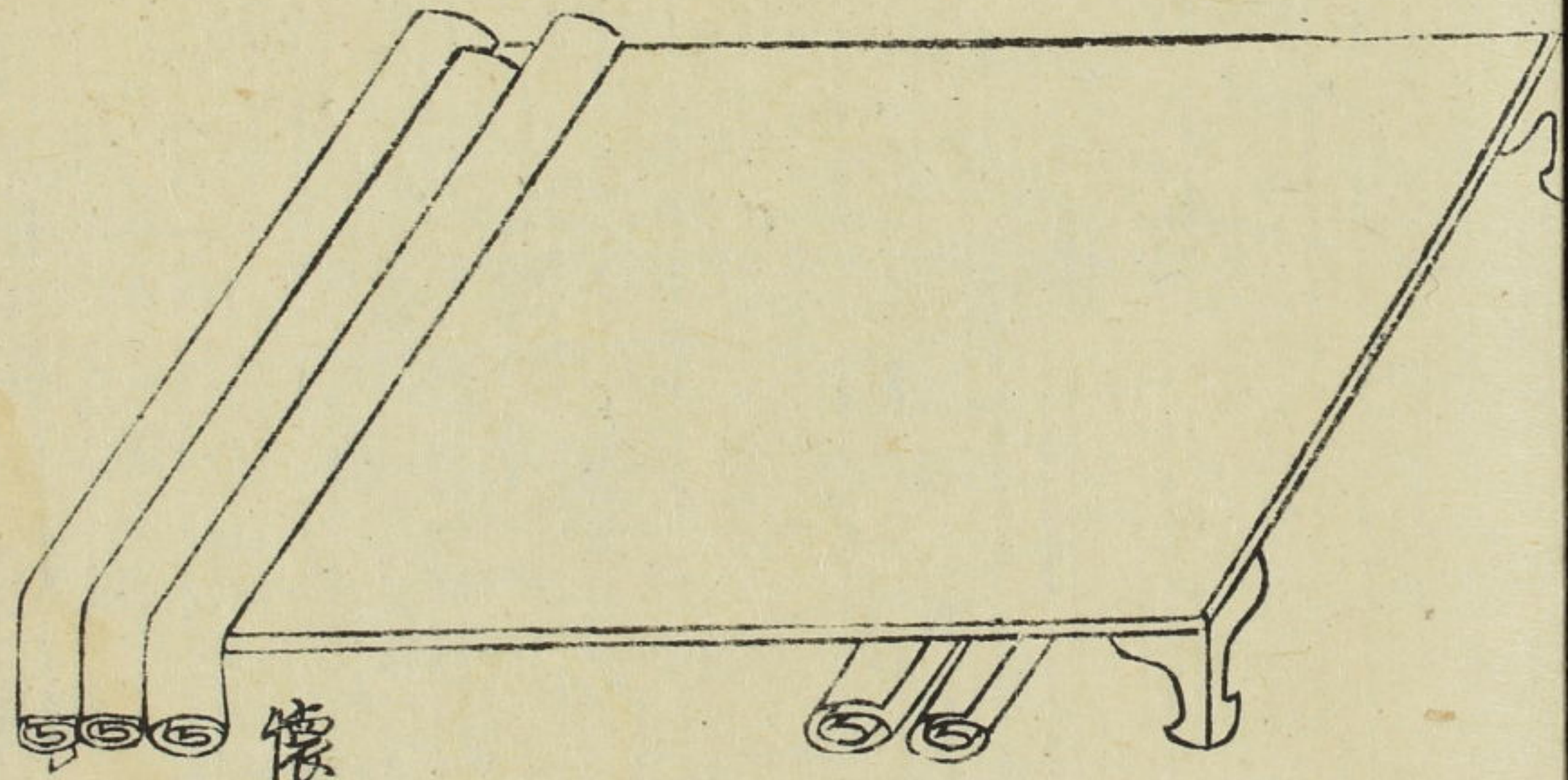


文庫の幅は二尺五寸許ある。
 是よりふ國の幅よりして線の
 寸法を定むるなり。

線の長さは一尺二寸五分許ある。是より
 年侍の寸法より。位階よりいへば
 サレはくどくちんべい。

神茶

下筆のりど
 文庫の長へ下書き
 二寸一



不糸の張りの
 文庫のりど
 あくび

懐紙のりどと掌の
 折りし文庫の
 寸法よりいへば
 あくび

○真の同姓をうらむ姓を
やぶ。位階を違ふるは
幸宗のうらむ。實務の
懐紙のうらむ。あはれし。

於くと意い。くると意と
かきかき。
ゆくと意と字と加へて。
三つとくくきり。

○非茶法樂ハ非同と云ふ。
位署書あり。非号の上關
字あり。その非何非とも
瑞化の或いある。位官
兼あり。中へ侍る。位姓と
かきかきとあり。たきかき

從位守攝頭藤朝

從位守素源朝

康朝 大に朝 五朝

あゝあゝ

○位署書式ハ官位相節
ふはく。あゝ。略してい
おふハ官位とせく。位署
く官卑々ハ位守官
とせき。位署と位守ハ

初春同詠祝言

非等

中書大夫實衡

いくと代と心あり
ぬふと度乃に相枝
緑枝とて春枝
ゆくと意

元日侍材本影前同詠花

非秋

侍從從位兼攝頭素源朝清

春日侍天滿宮影前同詠梅

多年友伴詞

出羽守從位藤朝之

官位相當

右近衛中將從四位下	左少將正五位下	右衛門佐從五位上	大膳左京修理亮從五位下
右衛門督	彈正少弼	左兵衛佐	侍從上殿大炊典藥頭
左兵衛督	刑部大輔	右兵衛佐	雅樂圖書頭
彈正大弼	式部大輔	左兵衛佐	式大藏宮治民兵部少輔
大膳大夫	大藏大輔	右兵衛佐	上野上総常陸介
左京大夫	宮内大輔	左兵衛佐	豐後守
修理大夫	治部大輔	右兵衛佐	山藏攝津尾張三河遠江駿河
民部大輔	兵部大輔	左兵衛佐	主税兵庫
中務大輔正五位上	中務少輔	右兵衛佐	甲斐相摸美濃下野信乃出羽加賀
大和河内伊豫武藏下総近江陸奥越前播磨肥後守	造酒	左兵衛佐	越中越後丹波但馬因幡伯耆出雲
位高	從五位上左近衛中將	右兵衛佐	美作備前備中備後安藝周防紀伊
官卑	從五位下守主水正	左兵衛佐	筑前筑後肥前豊前
官高	左京入六行從五位下	右兵衛佐	造酒
位卑	左兵衛佐行從五位下	左兵衛佐	西正内膳正六位上
	大學頭行從五位下	右兵衛佐	主水正安房若狹能登佐度出後
		左兵衛佐	石見長門上佐日向大隅薩摩守
		右兵衛佐	正六位下
		左兵衛佐	主膳正從六位上
		右兵衛佐	和泉
		左兵衛佐	伊賀志摩伊豆飛騨隱岐淡路
		右兵衛佐	豐前對馬守從六位下

官行位とつくるなり。左ふり多しは左の官位と右の官位とを尋るなり。はら

○元日 人日 上巳

端午 平陽の日の
佳節 八日月と巻紙

元日 詠 試書
私歌

早夕 十支 秋を
あや

或は 十支 秋を
秋夕とわかくるなり。
又十支 秋と打あけ
やくもくろくしん。

秋夜詠 月光無隈

私歌

平時房

星夕同詠 牛女言志

私歌

源貞辰

佛寺遊覽の懐紙ハ

○佛寺遊覽の懐紙ハ
非系より拾別うらうし。
關守の可位署きつり及む。
寺岡ハ念丸の人あま
よまうし。又僅佛日
涅槃の舎西行上人忌日を
臨時ふくむべしと
あまうし。

冬日遊清光院詠梅花

和歌

石上清岡

秋日遊海禪寺同詠紅葉

秋深歌

中尾親和

○寺岡とかくあまうし。たまふ林を裏の舎より之をハ寺岡とやうし。

春日詠水石紫久

和歌

兵部卿幸仁親王

春日同詠水石紫久

和歌

大友臣藤基熙

秋まの同字とてしは終るべ。
あまうし。之をハ秋まの上より
この格をこしく取れとてし。

鳥のり

上

○僧徒、季同と書ふ及び、俗人の懐紙と云ひ、まきまき、
ゆゑり、言位の序、小連るといふも、斟酌、あふまゝ、
たゞ、傍欄、小進む、も言とつく事、あ。又、傍欄、意、同の懐紙
まきまき、く、る、ま、り。

詠月前薄霧私歌

意同

秋はな、月とあらを
はく、ま、や、い、こ、も、
ぬ、こ、と、ま、め、さ、ら

詠菊花私歌

菟空

ふ、あ、り、と、は、口、は、あ
こ、は、あ、さ、さ、り、あ
ふ、ち、く、の、花、や
あ、さ、り

詠曉神樂

私歌

沙門光真

か、み、く、君、曇、り、か
こ、世、を、照、と、其、ひ、ら
り、も、志、る、一、は、さ、り、
布、古、衛

○詩懷紙瑞他名書等の法ハ。奇懷多おどろ。絶句ハ三行
ニ多ふまゝ。律ハ六行又字ふまゝ。むろりの字ハ
この三紙ふりく。是令とす。

賦耕於東郊各令字

詩探得
字

推中納言元長

天氣降私春雨濃平

夏局賦聖恩單草木

應制一首 以榮為韻

攝政後信藤原朝日惠經

我后聖恩人藏不遍覃

草木萬方平致亦再

奏金芝色省下並用

瑞折榮太昊氏風傳

盛德治陽懸月榮長生

微臣扶老侍斯席悅矣

今宵雅頌聲

田水蘸識年豐勸農

只在東郊舍耒耜將

白髮翁

子
の
終

廿

〇三首懐紙

こゝろづらぬまゝかゝる三首と和る。たゞし実況の懐紙の
ごとく書くものも三首はあふまざる。これども

詠三首とあるらん

冬月詠三首秋歌

正三位藤原資成

冬を

冬はゆきのこころのこころ
きあはれをたぐひのこころ
いろはのほろひ

冬雨

ぬれつくさずとてくさくさ
あはれをたぐひのこころ
夕暮のあはれ

いづれか
とて
いづれか

二のこころ
十首とあるらん

冬月崇徳院御影堂

詠三首秋歌各五首
後任行中辨藤原資康

菊

はかしくや枝のいづれか
衣久のこころはあはれ
新をたぐひ

懐紙

かよはれんのかよはれん
いづれか
いづれか

詠五日才子

秋歌

行中御言

まひ衣つけくさくさ
たぐひのこころ
いづれか

懐紙

かよはれんのかよはれん
いづれか
いづれか

みづのこころ

十七

〇三首懐紙

秋月詠三首佳歌

権中納言藤原實隆

芙蓉

了月と志くれば
いれし心は月夜
ゆらりあらし

情状

かきとくし
や子持し
秋乃

関勢

はまやうけけりま
とりの林の教るま
く朱るま

詠三首和奇

権中納言實隆

花ささくきり
のふまのし
なまをる

花下送日

名残さく
本くけ
かき

落花金巻

ちる花の
玉のま
けは乃

五首の歌

〇五首の歌の

三首の歌

三首

並茂雅彦よ青
懐紙ハ三行を中
二首二首ハ三行
七字ハ五首三首ハ
一紙ハ二行づゝ
十首ハ一上六紙と
はぐりとも毛
すゝ尻きり

詠五首和歌

正二位資枝

柳菖

依のひめがけりしるの
そのかきやあまのあは
都のこゝろり

橋

さかきくは水の一本
庭はりくとかたりこれの
かお架よりあま

橋衣道

さかきくは水の一本
庭はりくとかたりこれの
かお架よりあま

子守

夕走りくは水の一本
いもこゝろり
と陰不まらぬ

慶賀

年外舞のむへりゆり
あつりこゝろり
因をたのし

五首の歌

十九

七言詩

○七言詩
二首

秋日同詠七言律

衣道衛權蔣藤原基業

七夕月

梧桐月夜の音と人神も
初め今めちる海つらむら
元一とあらは

七夕河

をきつての心は遠くはこらふ
あふれ河もつらむらむら
又きこるらむ

七夕系

つらむらむらむらむらむら
あふれ河もつらむらむら

七夕系

七夕系

人よこむらむらむらむら
七夕のまはれよあふれ

七夕夜

あふれ河もつらむらむら
あふれ河もつらむらむら

七夕別

あふれ河もつらむらむら
あふれ河もつらむらむら

七夕夜

あふれ河もつらむらむら
あふれ河もつらむらむら

七夕の系

廿

○短冊書躰

言塵集々。當座乃探題おろ款ハ短冊なるも下あかぢらこ
 式あるべつとぞとんえ。又短冊ハ我名を異躰草乃字ふ
 書ちと尾籠乃事なり。實名とハ見履ととぞ振よさしり
 かくべしとつら。又龜鳥井宋世自筆此状。鳥山政長ふ贈るにあり短冊す
 法の事。廣ヤ一寸八分。長と一尺一寸五分なり。但長ヤふた
 ち聊二分五分と井くる。かくべし。廣ヤ一寸のとお違不
 てふゆ也。半短冊とく定れる寸法なり。時ハ隨く来る
 ふん。凡見よとぞ振よ。て沙汰いとあり。世間ハ為世形短冊す
 法。又ハ御製短冊。親王攝家各別なり。と記せしとん

あまどとん。大のく後入臆説ふく謬あり。其證ハ御製

短冊堅一尺一寸八分幅二寸とあり。然るふ後宇多院宸翰

分八寸一
 還山
 世をいふくものわくのさすまひま
 かくのしらいうさるりのりあり

かく乃如。其外あまあるべし。更ふ定れる寸法ある
 ふあづん。猶くくふ事ハ別よ。とん

一字題
 墨法き
 蕨
 春らふひのぬきくまけさ
 ばやうらひの目とてれふらるる

青雲ハ上
 筆雲ハ下あり
 此丸後目
 あり上ハ括弧
 ありあり

○二字題 三字題 一行はかゝるべし

尋花

終日またらりてけしきもはく
ぬ終りや也の春よも花見定夜

夕春雨

春風のそよよも夕暮の
けのきほくの春よも花見定夜

○四字題ハ二行ふつゝなり

老後

建懐

かゝるもよき友よれかおいつこ
ひりりしと花きのふふ 柳河

なまへ四字三文字の題といふは二行ふつゝ。たゞし熟字と
まゝにふつゝ

梅

五月雨

晴

春風

氷解

○短冊は姓名をよやくてあり。竹内輝正大務 俊治 五辻 富仲の
例とて出ーたまはばつゝにまゝに

緒絶橋

我があひひりもよき物ー白玉の
緒絶の橋を身にしむらん 源徳

雪中鶯

はるりしと春のねらの竹枝
さけくもあのおのひりも 源徳

○つゝ題ハちりりー書じー

月夜

哀のひりりもよき物ー花のひりり
ほつるもよき物ー月よも花見定夜

○かみ句題ハちりりー書じー

宮中

うらやまの月よも花見定夜
月をさけくもあのおのひりも 源徳

女房の名を裏に書くなり

和子

○代筆の短冊は、図のどく。表は他志の名とく。裏はも志の名とく。

他志の名

定親書

○發句短冊は一行のみ書くなり

新樹

紅のしらばなをひやまゆま

勝仁

○詩をば封がけ短冊のどくをくむなり

初花

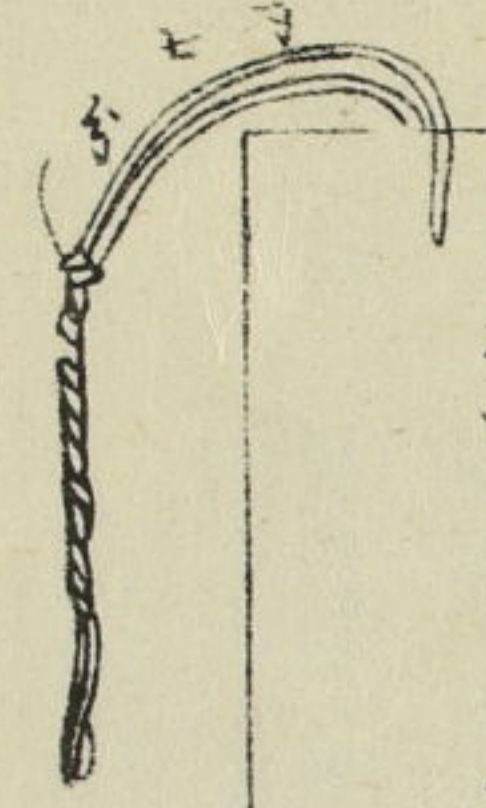
時至園林草木濃賞必資如洛陽中
愛看雅希加吟興連夜春風一朶紅長維

○短冊をらやうの圖のどく裏もあるなり

は回指一ひめり

年月日

何亭



水引よく綴り

水引の綴り

廿七

八雲御抄

と八雲御抄ふいぬ。六月を賞覧せらるるが、御下
のしき給ひし一紙なり。

住持の儀、後鳥羽
の所、今も...

不系乃人、此情、常々、其基、此下、主一、或々、
ありしが、清輔朝臣の説、八雲御抄、小載、
若障りあり、不系者、一紙と、封、
そ上の或封、或ハ片名なり、

善哉、雜談、
いふが、本なり、其、小具、一たる、是、是非、
少強、殿、定、之、或、い、性、の、あ、く、く、人、
乃、上、年、
か、せ、く、百、首、を、我、書、給、ひ、
い、り、
き、
他、者、
世、
ち、
ま、
ど、
い、
か、
あ、
と、

い、り、
き、
他、者、
世、
ち、
ま、
ど、
い、
か、
あ、
と、

八雲御抄

手紙の集

そむくは黨乃美くも。師乃若く名薄たぐり
らへ。ちちらむ成よあふく。Nonovering

ふふふふふふふふふふ

平 藤原朝臣の

長徳國系人 中直親

一



ふふふふふふふふ

情 てもも 悲 しまも 悲くも
結 ちくも 悲くも 悲くも 悲くも
阿 ぶくも 悲くも 悲くも 悲くも
あ ぶくも 悲くも 悲くも 悲くも
あ ぶくも 悲くも 悲くも 悲くも
あ ぶくも 悲くも 悲くも 悲くも
あ ぶくも 悲くも 悲くも 悲くも

新朗詠集

一冊

真海柏木先生輯
素堂山本先生校

紙書の初々上文武希よりや傷元の以よある身での人物
撰び其時世のお慶と平して至成山終々初おほるの
をえくび物そゆる他者の附世不くわを春夏秋を日始
ころる一ふ本集のてくを多し引身目録あり終不
日始の題と大考せり

歌仙繪抄

一冊

藤原正臣先生著
喜多武清先生撰畫

紙書々他者の家傳及び奇の知を列去といは終々を本
或は先生のより出たりを要考

元和帝御撰
外歌仙集

一冊

一名近代歌仙

是々ゆけまくもくとき後水尾の上皇の撰むるそ東福門院の
少房風にあさむるに平吉有徳有り終り不徳去の姓名を附し

岸本由豆流大人著
上佐日記考證

全二冊

此書は古に傳解と止あれ書より初つるまでと程志とく死るも多
を孝吟修常契仲阿富梨と高淵翁本居室長村田其
右人の後と流しはあけまことあうけ統をも加へ常十又終を
かて後傳のいりうは日允の筆とく之く世に因るも
うふんく中ちうかろそんばあさうに

更科日記

二冊

賀茂真淵翁歌集

小本

二冊

橘千蔭翁歌集

小本

二冊

平春海翁歌集

小本

二冊

播千蔭先生手本類

新百人一首 かきま

新三十六歌仙 かきま

頃よの貝 かきま

古今集か系序

山居帖 かきま

源氏ゆきう比あり かきま

大歌所御歌 かきま

真草千字文

萬葉新採百首 かきま

吳竹帖

湘雲帖

俗用手簡

同先生用筆大中小色々

松花堂瀧本狸々翁手本

六句帖
氣霽帖

紀貫之朝臣の書

石摺

此書ハ提中約云氣輔ハの家集を紀貫之の書カクテ
稀ニ傳ワリタルニ板不アリキリクニ仮字古法ヨク多ク
うごがひたつた也

屋代先生書艸書千字文

石摺

援山先生書庭訓往來

二冊

天民先生書赤壁賦并千字文

石摺

龍澤先生行書小學題辭

石摺

近代諸名家畫譜

全二冊

玄對先生畫譜

山水之部

五冊

此畫譜ハ唐宗元明法諸大家の画法ハ勿論論を存
の中よりち秀の姿を採り用いしる画存るるに
此と云ふをいへるべきなり

同先生畫譜

人物花鳥之部三冊

金生樹譜

三冊

長生舎主人編

此書ハ草木花樹の培養法を記し
てありて其の法を採り用いしる
人ハ必熟讀し之を記し書あり

松葉蘭譜

一冊

此書ハ松葉蘭の性質を記し
てありて其の法を採り用いしる
人ハ必熟讀し之を記し書あり

幼稚畫手本

一冊

柳烟堂主人筆

此の書ハ山水人物花鳥の類
を記して其の法を採り用いしる
人ハ必熟讀し之を記し書あり

古今名馬圖彙

繪本金剛傳

繪本勇士鑑

繪本武者揃

彫物畫手本

名家畫譜 三冊

伊勢貞丈先生著千賀春城先生補
軍用記 彩色 全七冊

此書は伊勢安斎先生ののりきかきしるを千賀先生は補
綴て右画の巻物となりて故実を記し先生は荒稿の
目録遣や小袖多、束金袴為、帽を錦色をどと、腰巾の部、鎧
の形、兜の形、革、革、革、威毛の事、具足、の事、弓矢の部、扇
國、扇、矢、保、長、魔、の、事、旗、幕、の、事、馬、具、足、の、事、
首、突、檢、の、事、首、札、附、の、事、威、快、書、状、持、事、の、事、武、者、列、傳、
權、着、初、後、鑑、解、傳、の、事、の、事、ま、ま、も、月、あ、く、毎、日、か、き、入、後、
を、出、し、る、書、る、ま、ま、委、實、事、へ、お、り、て、知、る、べ、し、

武器袖鏡

一冊 栗原先生著

此書ハアラユル武器ヲ圖式ニアラハシテ且附言ニ兵士ノ事ニ
付精ニキ考ヘアリ

武器袖鏡後編

一冊 同 著

此書ハ甲半首喉輪ヨリ馬具旗指物等ニ至リステ武
器ノ圖式ナリ

武器袖鏡三編

一冊 同 著

此書ハ現在スル古甲冑五十二種ノ威色ヲ彩色圖ニアラ
ハシ甲冑製作便ナラシム

甲冑圖式

二冊 掌中本 同 著

此書ハ武林法量ニ編ニシテ甲冑ノ圖ヲツマビラカニス

弓箭圖式

一冊 同 著

此書ハ先生著ハス處ノ武林法量中弓箭ノ一節ヲ武家方カラス見玉フベキ書ナリ

單騎要略

五冊 村井昌弘先生編輯

此書ハ甲冑ノ着用故實禪衣等付ヤウ頭盛ノ緒々ハウ背旗ノサシヤウ等マデオク圖ヲ設ケテ詳ニサトシ手ニ携ル處ノ鎗刀器械ニ至ラテ其故實ヲ明カニシ一騎前ノ要領盡セリ武家方ハサナリ有職ノ學シ玉フ人ハ必坐右ニ置ベキ書ナリ村井先生ハ神武迪精武學先入等ノ作者ニシテ其名高シ

校正 鍛冶銘早見出

尾關永富大人撰寸珍 上下合本一冊

此書ハ大寶中ノ天國ヲ始トシテ今ノ世ニ至ルマテ千餘年ノ間鍛冶ノ銘ヲ輯録シ殆一萬三百六十餘エニイタル古ノ七十六百八十餘ノ如ク此多銘ヲ集シハ末世ニキ野也シ方ミ新ノ七十六百八十餘ノ如ク此多銘ヲ集シハ末世ニキ野也シ方ミナラス見出ニ速ナランガタメ銘ノ頭字ヲいろは分ニシ長銘二字銘ハサナリ年号彫リシホドモハ其年号ヲ頭シ年号ナキモノハ其時代ヲ考ヘ年紀ヲ施シ父子兄弟子孫ヲ紀シ且梵字ハ治エノ信心ノ皎スル處ナレバ是等ヲ頭シ亦甲冑ハ我身ヲ護ル第一ノ要具ナレバ卷末ニ妙珍家早乙女家等ノ家系并ニ鑑定ノ次第ヲ附録ス御武家方ハ云モサナリ武器商ノ家々モ片時モ坐右ヲハナサレザル珍宝ノ書ナリ

古刀目利早手引

同撰

両面摺

此書ハ又紋ノ捉又ハ時價或ハ切レ物并様ノナド頭シ
初學ノ便リニ上ナキ珍書ナリ

古刀相撲取組

同撰

同

古刀正真俊覽

同撰

折本

此書ハ古刀新刀ノ銘中心ノ及又紋鈍ニ至ルマテ正真ノ
儘ヲ寫セシモナレバ此圖ヲ見覺ル時ハ正作ヲ見テ立所ニ夫レ
作ト知ル一而添ノ人ニ逢ガゴトシ又刀劍ハ圓形ヨリ出ル
圖ヲ以テ頭シ且疵ノ用捨或ハ目利會ノシヤウ又ハ當同前并
實無双ノ珍書ナリ

掌中古刀銘鑒

一冊

巨横園輯

此書ハ先ニ銘盡數多アリトイヘ其ト事替リ當 同前
專兩作一傳ノ次第珍敷作人其外吉野年号打作人
及文中心鑄廣狹帽子ノ箇條匙煮鑊目造リ様子梵字
并彫物ノ次第鑒定會ノ入札答ヘヨリ致シ鍛冶ノ官名作人
位列鍛冶ノ系圖并名寄等ニ至ルマテ委シク辨シ難キ圖
ヲ出シ疑敷事ハ載テ奇大ノ珍書ナリ

武家用文章

一冊

此書ハ武家方ノ文章ノ切紙ヨリテ作リて烟去ル
居云徳州裏白物ヲ徳州代ホノ目録小録も巨横園
あり一載ノ小よりていさうづの遠ひありとも大くこの
紙紙ありていさうづあり

歷代帝王承統譜

折本 一册

紀藩春川先生校閱

此書ハ唐虞以來清ノ道光帝ニイタルテスヘテ漢土歷代承統ノ主ヲ系譜ニ作りテ歴史ヲヨムモノニ便リス

草聖彙辨

八册

清朱迦陵先生摹辨
皇國水根文峯先生校字

漢土ニテ歷代ノ草法ヲ集メタル書數多アルガ中ニ此編精善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書ヲモ此編ニオサメ出セリ始メニ二畫ヨリ三十畫ニ至ルマデノ檢字アリ此ニヨリテ字ヲ索ムベシ第八卷ニ草法母觀ヲ附シタリ草書ヲ學ヒ玉フ君子珍セズンバアルベカラザル書ナリ

明季遺聞

四册

清鄒錫山先生著

此書ハ清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末季自成ノ乱ヲ偪シ本末ヨリ清ノ閩廣ヲ平定スル事ニイタル國性爺ノ事實等コノ書ニ詳ナリ

皇和魚譜

二卷

栗本先生纂

此書一六河魚類凡五十二種ノ圖說ヲアゲ卷ニハ河海通在ノ魚類一十三種ノ圖說ヲアケラレタリ海魚ノ類近刻ニ出ス魚類ノ性味良毒ノ辨シガタク混シヤスキモ此書ヲヨミテマバ分明ナルベシ

爲己執記

一册

羽佐間芝瓢先生著

此書ハ醫道ハ人ノ爲ニスルワザト心得ズ己ガ爲ニスルノ仁道也ト心懸ルガ肝要タラフ辨シタル書ナリ

五百崎虫の評判 一册

親世織部大夫校正 諷本百二十番 珍本薄用 全三册 同外 近刺

小説土平傳 一册 江戸町鑑 二册 江戸町づくし一册

袖珍名鑑 一枚 早引二體節用集大成全册

大寶百人一首紅葉錦全册 桃花百人一首全

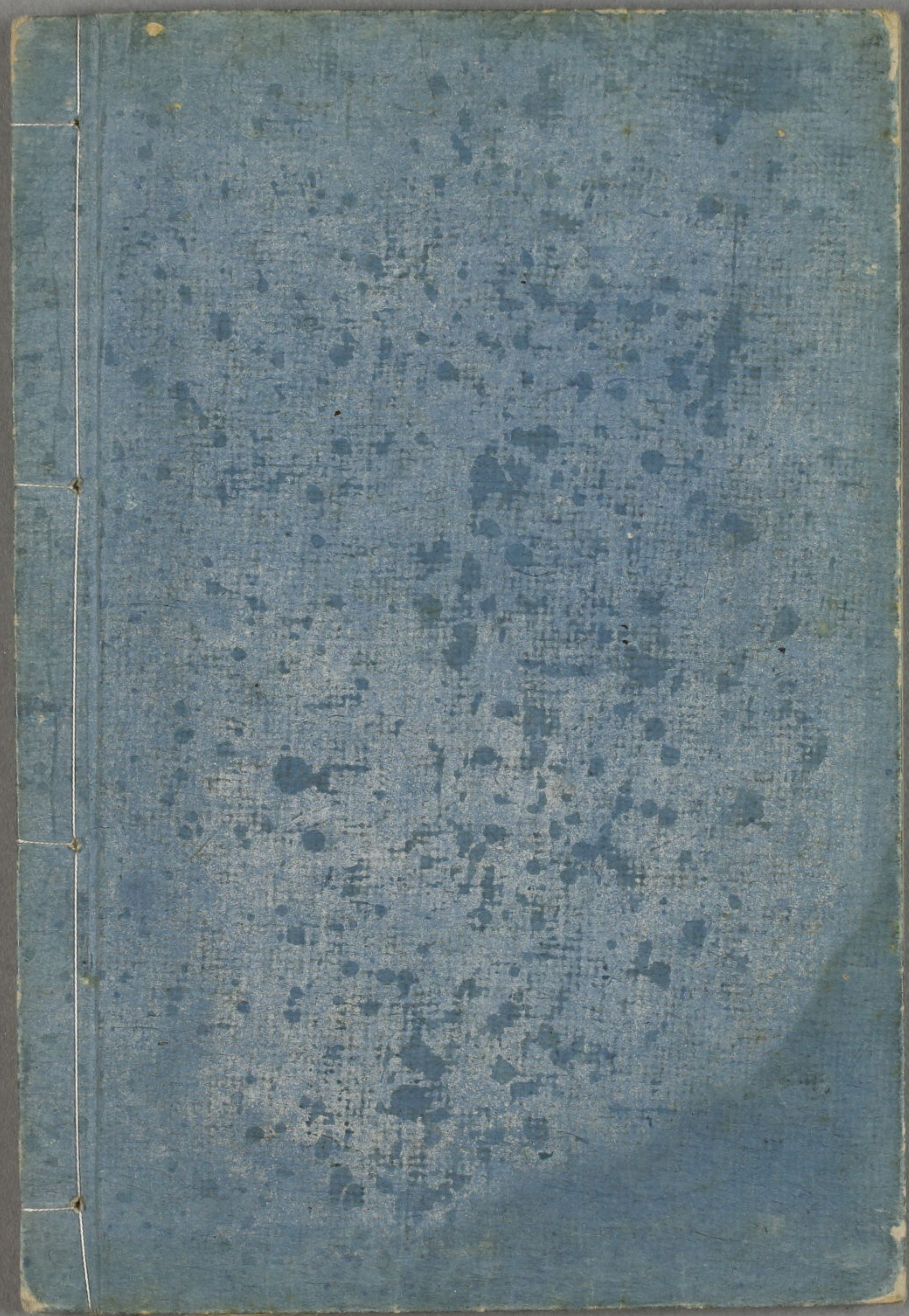
錦百人一首 書後山流彩色入 美寶古状揃 全

百瀬高賣従来 全 同みよこ名所従来全

柳家流高賣従来 全 実語教童子教 全

昭三郎一六

150



中臣親滿著



千名子如也

京都

金花堂



